



Japan Display Inc.

2024年度 第1四半期
決算説明資料

2024年8月9日

株式会社 ジャパンディスプレイ

**昨日の宮崎県日向灘を震源とした地震により、被災された皆さま、
避難されている皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
JDI役員及び従業員一同は、一日も早い被災地の復興、
及び被災された皆さまの生活再建を、心よりお祈り申し上げます。**



PersonalTech For A Better World



Japan Display Inc.

2024年度第1四半期 総括

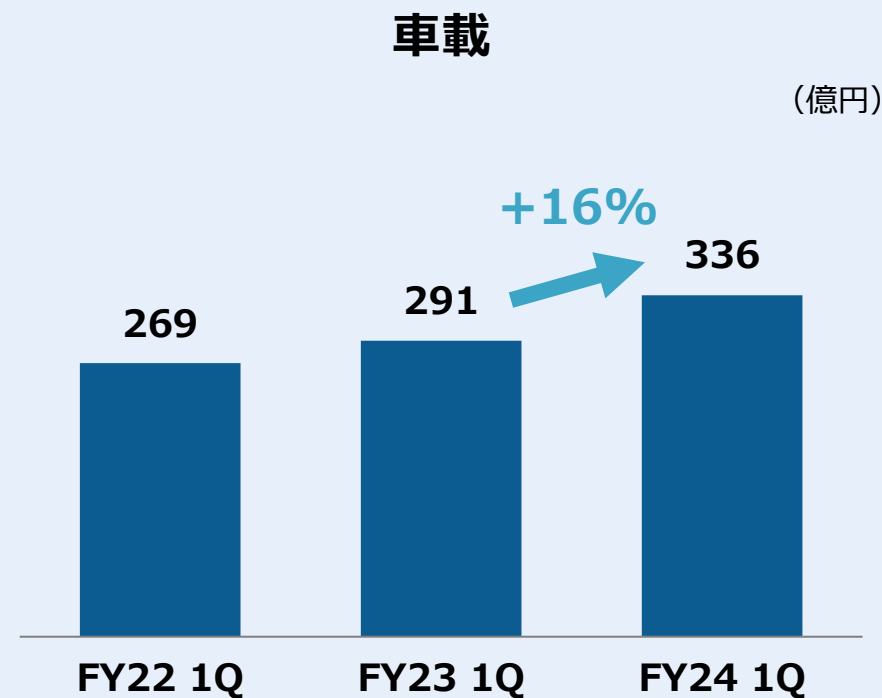
- 「世界初、世界一」独自技術である次世代OLED「eLEAP」の開発が着実に進行、量産開始は本年12月
- OLED（有機EL）と車載の底堅い需要により、増収
- JDIの将来を担うOLEDは前年同期比 + 41%増収
- 固定費削減と事業生産性向上で損失を大幅圧縮
EBITDA +51%、営業利益 +49%、当期純利益 +53%改善
- 厳しい環境は続いており、抜本改革を引き続き聖域なく推進し、FY24下期からはEBITDA黒字化を見込む
- 大規模eLEAP事業立ち上げに向け、中国安徽省蕪湖市との協議継続中

- JDIのグローバルディスプレイ産業におけるテクノロジーリーダーシップを進展
「世界初、世界一」独自技術を続々開発・製品化
 - 2 Vision Display (2VD) : 世界初 Dual Touch機能搭載、高画質2VD
 - 2500ppi超のVR用超高精細ディスプレイ : 世界一の超高精細度を低コストのガラス基板で実現
 - 5G液晶メタサーフェス反射板 : 世界をリードするJDIの5G通信インフラ技術
 - ZINNSIA (ジンシア) : 様々な素材（木材、大理石、革皮、布、石膏ボードなど）の表面をタッチパネルに変えるインターフェイス
- 昨今の地政学的緊張感の高まりは、サプライチェーンの見直しを促進。戦略的生産拠点として日本の重要性は増大、JDIの存在価値は飛躍的に向上
対応策に向けて顧客からの引き合いが急増

**長期供給契約に基づいた
安定性の高い成長ドライバー**

**「世界初、世界一」独自技術である
次世代OLED eLEAP及び2VD等
斬新な新規技術にもとづく製品の商談も活発**

堅調な顧客需要もあり前年同期比16%増



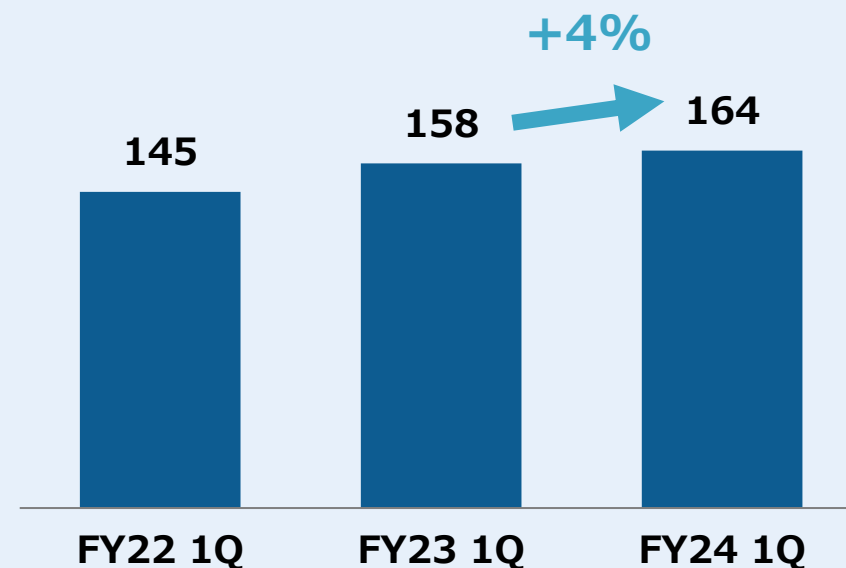
※ 事業の実態を分かり易く反映するため、2023年度第2四半期決算より、売上分野の名称を次の通り変更いたしました。：「モバイル」→「液晶スマートフォン」、「ノンモバイル」→「スマートウォッチ・VR等」
なお、当該変更は名称のみの変更であり、売上区分の変更はございません。

商品ポートフォリオの分散化により
車載同様、安定性の
高い成長ドライバーとして育成

JDIの将来を担うOLEDは
前年同期比+41%増収、VRの減収をカバー

スマートウォッチ・VR等

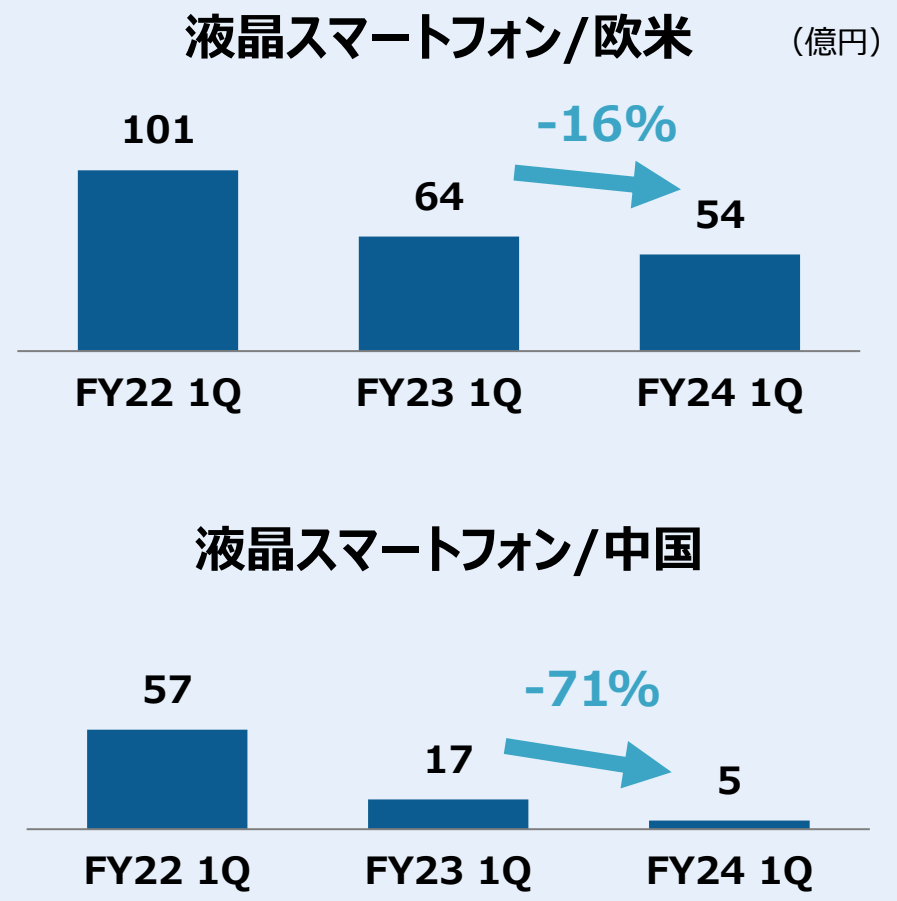
(億円)



エンジニアリングリソース等、経営資源を
次世代製品に集中すべく、コモディティ化されて
収益性の低い液晶スマホ事業を戦略的に縮小

上記施策により27%減収

eLEAPを通じて競争優位性をもって、より
収益性の高い形でスマートフォン事業に再参入





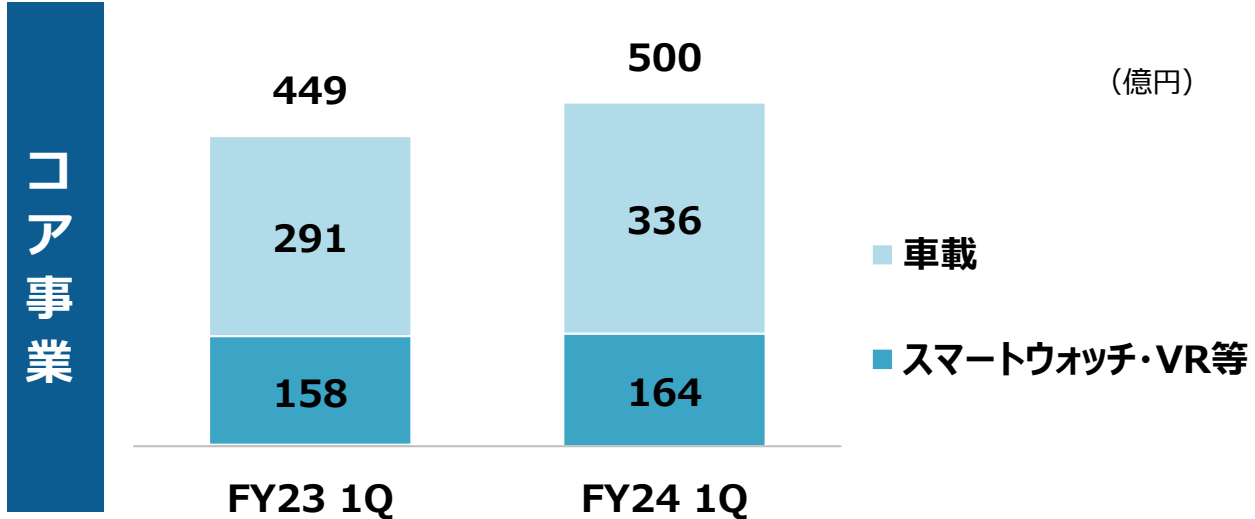
Japan Display Inc.

2024年度第1四半期 業績報告

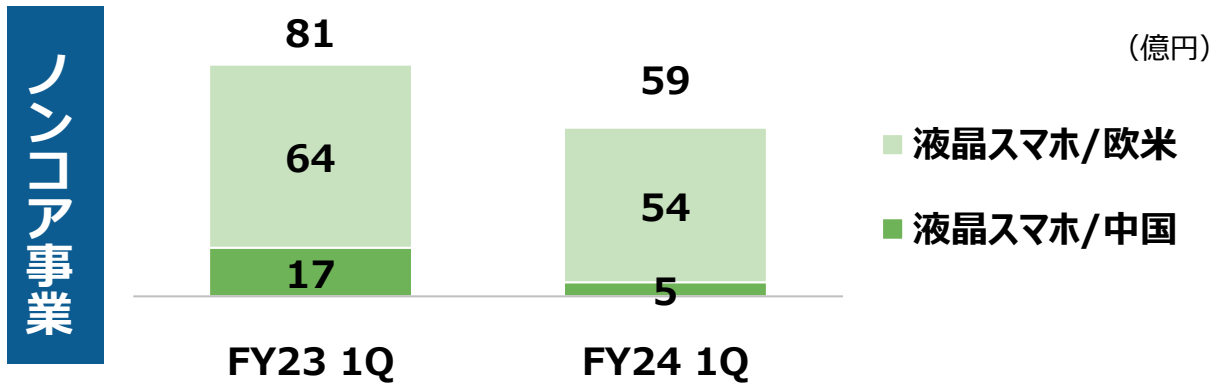
コア事業の売上増加、製品ミックス改善、固定費削減、在庫効率化により損失を大幅圧縮
EBITDA +51%、営業利益 +49%、当期純利益 +53%改善

(億円)	FY23 1Q	FY24 1Q	前年 同期比	
売上高	530	559	+6%	コア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）は堅調 ノンコア事業（液晶スマートフォン）は経営資源の成長事業への集中による戦略的縮小から減収
コア事業	449	500	+11%	
ノンコア事業	81	59	-27%	
EBITDA	△122	△60	+62	製品ミックス改善、固定費削減、在庫効率化により 損失を大幅圧縮
営業利益	△139	△70	+68	
当期純利益	△122	△65	+57	固定資産売却益（旧東浦工場）17億円を計上

コア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）は増収
JDIの将来を担うOLEDは前年同期比+41%増収
戦略的縮小によりノンコア事業（液晶スマートフォン）は減収

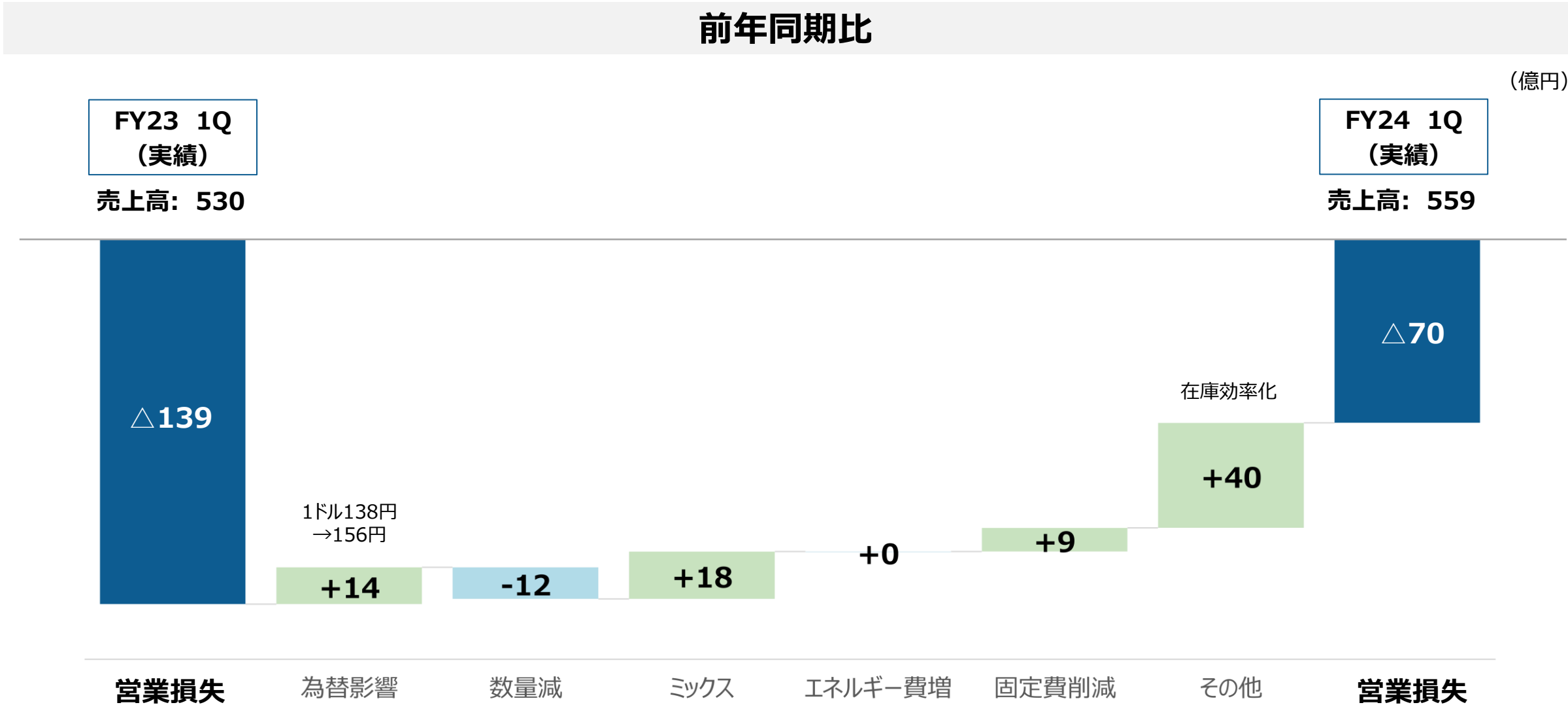


- **車載（YoY +15.5%）**
新製品含む需要増、及び円安効果により増収
- **スマートウォッチ・VR等（YoY +3.6%）**
OLEDスマートウォッチの需要増が、VRの需要減をカバーし増収



- **液晶スマートフォン（YoY -26.9%）**
エンジニアリングリソース等の経営資源を次世代製品に集中するための戦略的縮小により減収

FY24 1Q 営業利益 増減要因（前年同期比）



前四半期比

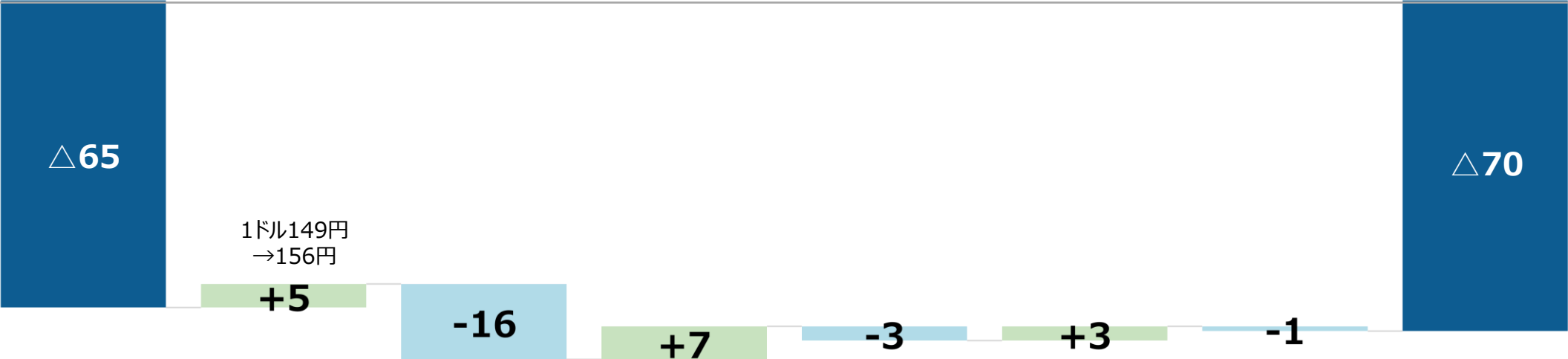
(億円)

FY23 4Q
(実績)

FY24 1Q
(実績)

売上高: 588

売上高: 559



営業損失

為替影響

数量減

ミックス

エネルギー費増

固定費削減

その他

営業損失



Japan Display Inc.

2024年度 業績予想

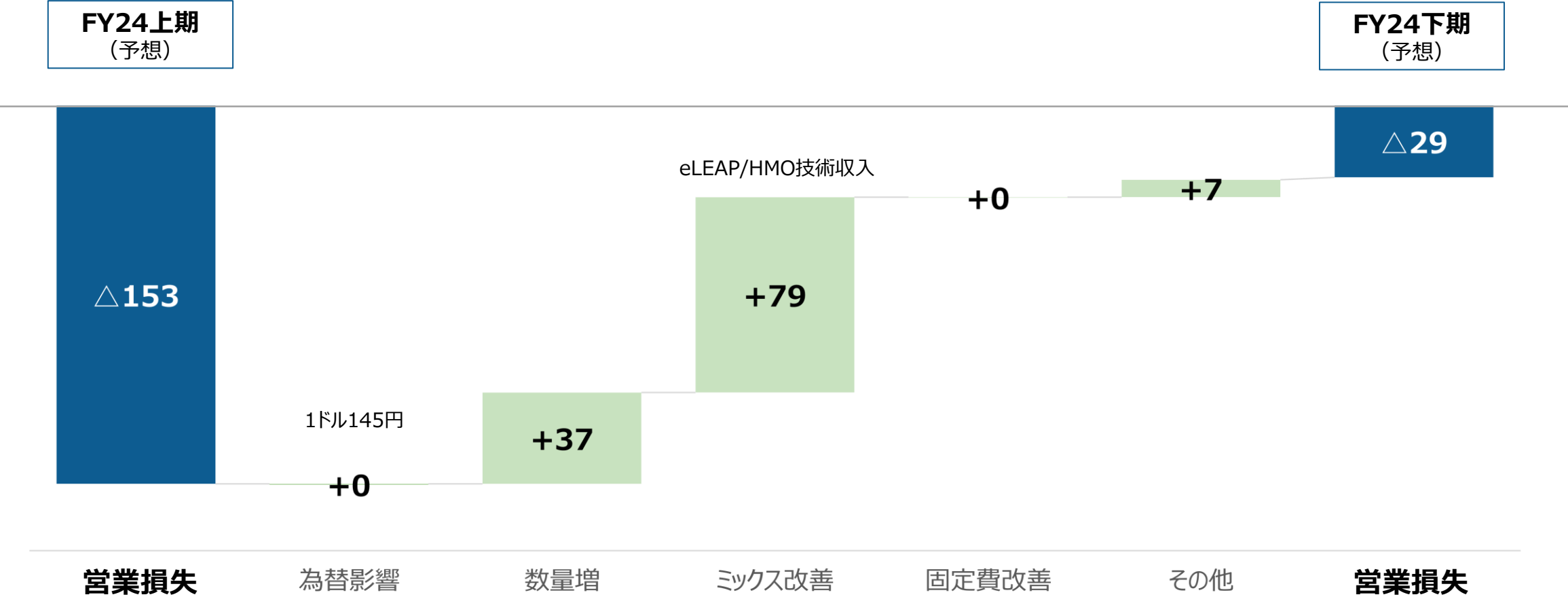
引き続き事業ポートフォリオの変革を推進し、コア事業の成長と利益改善を実現
コモディティ化された液晶スマートフォン事業と車載の不採算製品を縮小
下期はEBITDA黒字化

(億円)	FY23		FY24 予想		FY23	FY24 予想	YoY
	上期	下期	上期	下期	通期	通期	
売上高	1,199	1,193	1,045	1,173	2,392	2,218	-174
車載 (コア事業)	631	701	656	662	1,332	1,318	-14
スマートウォッチ・VR等 (コア事業)	401	334	313	495	735	808	+73
液晶スマートフォン/欧米 (ノンコア事業)	137	124	59	0	261	59	-202
液晶スマートフォン/中国 (ノンコア事業)	30	33	17	16	63	33	-30
EBITDA	△ 181	△ 101	△ 130	13	△ 282	△ 117	+165
営業利益	△ 214	△ 127	△ 153	△ 29	△ 341	△ 182	+159
経常利益	△ 191	△ 141	△ 179	△ 64	△ 332	△ 243	+89
当期純利益	△ 287	△ 156	△ 170	△ 96	△ 443	△ 266	+177

※FY24想定為替レート： 1ドル=145円

LTPS数量増による茂原工場の稼働増及びeLEAP/HMO技術収入により
営業利益が改善、EBITDAは黒字化

(億円)





Japan Display Inc.

事業報告・ 「METAGROWTH 2026」アップデート

2026年に向けた基本方針

「世界初、世界一」の独自技術により
社会と人の課題を解決し、
PersonalTech For A Better Worldを実現
価値創造をMETAGROWTH





“META”

「広範囲、高度、普遍的」を意味し、 JDIの今後の飛躍的な成長を表す

メタバースの市場拡大がJDIの成長にもリンク



ディスプレイは現代社会の基盤技術
他の追随を許さない競争優位性を確立し、
社会の発展にとって不可欠な企業として顧客価値・社会価値を創造



①

「世界初、世界一」
テクノロジー
リーダーシップ



②

革新的な技術
飛躍的な成長



③

GreenTech・
サステナビリティ経営



①

「世界初、世界一」
テクノロジー
リーダーシップ

- eLEAP（次世代OLED）、HMO（High Mobility Oxide）、メタバース向けの超高精細ディスプレイ、Rælc clear（レルクリア：透明ディスプレイ）等、既に「世界初、世界一」独自技術で実証しているように、JDIは グローバルディスプレイ産業におけるテクノロジーリーダーシップを取り戻した
- この盤石な技術基盤をさらに強化し、飛躍的な顧客価値創出と株主価値向上を実現



②

革新的な技術
飛躍的な成長

- グローバルディスプレイ業界はテクノロジー産業。
JDIも顧客もすべて テクノロジーカンパニーであり、
顧客ニーズは「高いコストパフォーマンス、最も優れたテクノロジー」
- 圧倒的なコストパフォーマンスを有する eLEAP等、
「世界初、世界一」の独自技術を通じて顧客ニーズに対応し、
顧客の価値創造と競争優位性をサポート
- コモディティ競争に参加せず、唯一無二の革新的な技術で、
抜本的な収益力向上と飛躍的な成長を実現



③

GreenTech・ サステナビリティ経営

- 環境性能に優れた eLEAP、HMO等、GreenTech技術により環境問題の解決に取り組むとともに、ESG意識が高い顧客の付加価値創出に寄与
- 企業の存在意義は社会貢献であり、サステナブル社会に資する経営を堅持
- 「世界初、世界一」への挑戦ができる会社として、社員一人ひとりの成長を支え、風通しの良い企業文化を促進

高度で絶対的な技術力の活用により、
JDIは革新的な世界初の製品開発を継続
ディスプレイアプリケーションを超えて新たなソリューションを創出

ZINNSIA
センサー

超高精細
VR

**2 Vision
Display**

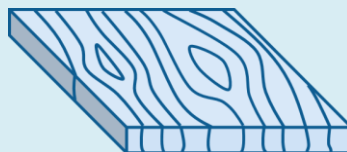
5Gメタサーフェス
反射板

ZINNSIA（ジンシア）様々な素材表面をタッチパネルに変える 革新的インターフェイス



ZINNSIA は、これまでセンサーとして使用することが難しかった素材でも、指の動きを検知することを可能にする、革新的なインターフェイス

木材



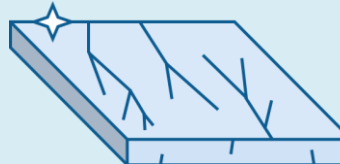
布



皮革



大理石

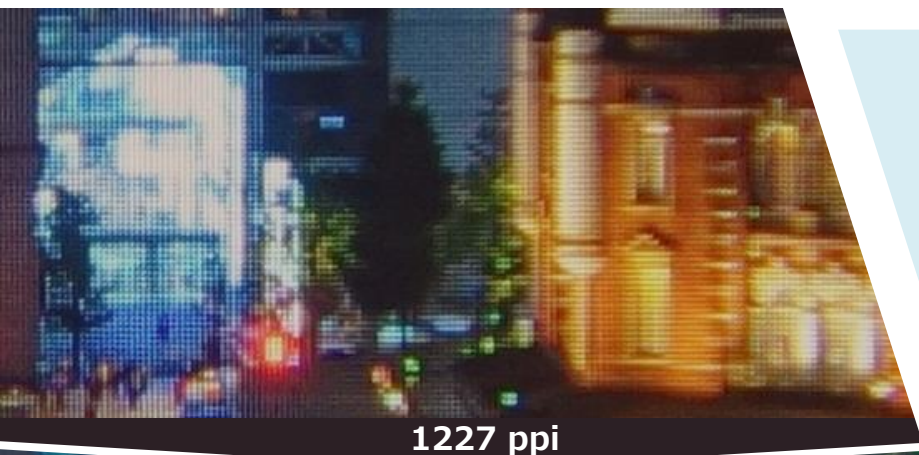


石膏



多くの素材に対応することができるため、幅広い市場、製品への展開が可能に

世界一の超高精細度を低コストガラス基板で実現 2.15型 2527ppi VRディスプレイ



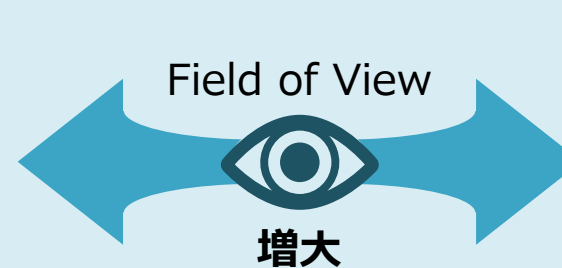
JDIの2.15型、2527ppiの超高精細ディスプレイは、コンパクトな2インチのディスプレイ内で広いField of Viewを実現、かつレンズ越しに画素のパターンが見えてしまう現象（screen door effect）を抑制。安価なガラス基板でより鮮明でリアルな映像体験を圧倒的な高コストパフォーマンスで提供

LCD IPS
表示モード

3840x3840
解像度

2.15 inch
サイズ

2527 ppi
超高精細



Dual Touch機能を搭載した高画質 2 Vision Display 運転席と助手席それぞれに高画質映像を表示すると同時に、左右からのタッチ操作を識別



見る方向により異なる2つの映像を表示する2VDの画質を大幅に向上させ、
車載用途で求められる画質に対応する2VD製品を世界で初めて開発

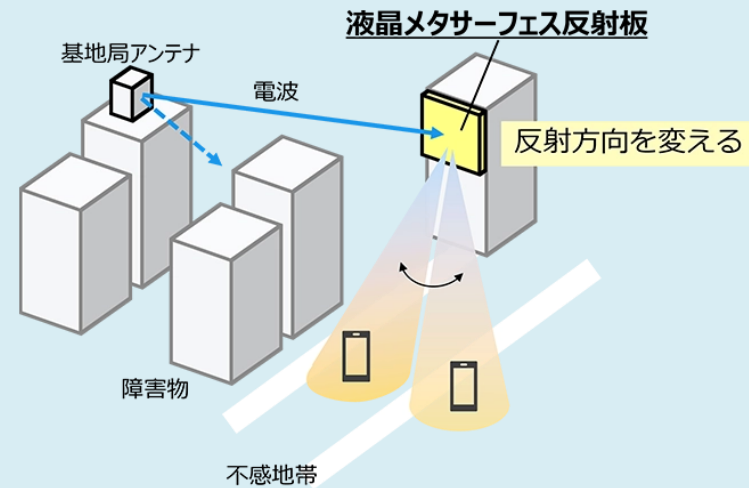


さらに、運転席／助手席からのタッチ操作を識別できる機能（Dual Touch）も世界で初めて搭載。1枚のディスプレイをあたかも別々の2枚のタッチ機能付きディスプレイのように利用することが可能に

世界をリードするJDIの5G液晶メタサーフェス反射板は、5G通信インフラの更なる発展と効率化を支え得る重要通信デバイス



液晶メタサーフェス反射板は、当社が培ってきた液晶技術を電波の世界に応用した5G向け通信デバイス



- ▶ エリアの修正
設置後の電波環境の変化に対応
- ▶ 動的なエリア構築
昼夜の人流の変化などに対応

大容量通信が可能なミリ波を任意の方向に反射させることでビル陰など電波の届きにくいエリアでの通信環境を改善

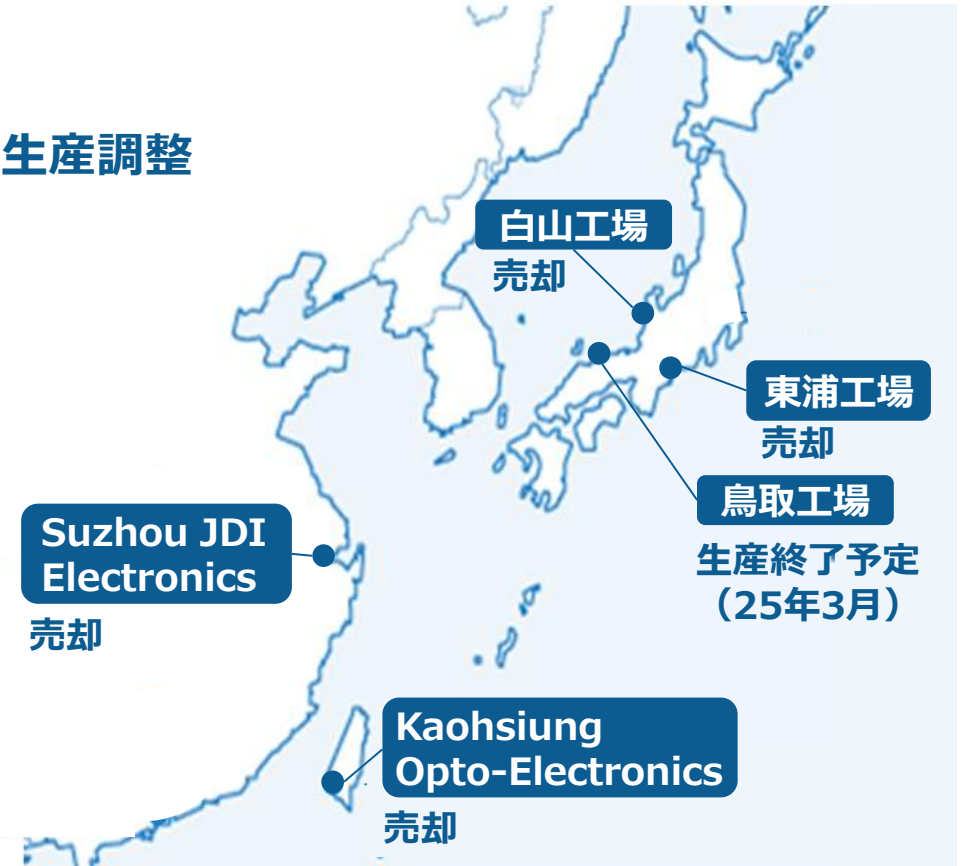
固定費削減、アセットライト化により基礎的収益力と資本生産性の向上に貢献

国内拠点

- 茂原工場（G6、千葉県） → **FY23 1Q 液晶スマホ事業縮小に伴う生産調整**
- 石川工場（G4.5、石川県）
- 鳥取工場（G4、鳥取県） → **25年3月 生産終了予定**
- 白山工場（G6、石川県） → **20年10月 売却完了**
- 東浦工場（G3.5、愛知県） → **24年4月 売却完了**

海外拠点

- Nanox Philippines Inc.（フィリピン）
- Kaohsiung Opto-Electronics Inc.（台湾） → **21年12月 売却**
- Suzhou JDI Electronics Inc.（中国） → **23年1月 売却**



固定費削減効果 合計430億円/年



昨今の地政学的緊張感の高まりは、自由貿易にリスクをもたらしており、
サプライチェーンの見直しを促進

特に欧米企業は、グローバルサプライチェーンの
リスク低減を推進

- サプライチェーンの見直し
- 生産拠点の同盟国展開
- 戦略的パートナーシップの形成

多くの顧客企業は、適切な解決策を
積極的に実行中





**リスク低減に向けたサプライチェーンの見直しにより
戦略的生産拠点として日本の重要性は増大**



**JDIの存在価値は飛躍的に向上
対応策に向けて顧客からの
引き合いが急増**



Japan Display Inc.

**「世界初、世界一」次世代OLED
eLEAPの立ち上げ**

eLEAP

- 環境ポジティブ
 - マスクレス蒸着＋フォトリソ方式
 - 超長寿命・省電力・高輝度
 - 自由成型（フリーシェイプ）
- environment positive
 - Lithography with maskless deposition
 - Extr^eme long life, low power, and high luminance
 - Any shape Patterning



その優れた性能と継続的なコスト削減により、OLEDは世界のディスプレイ市場において圧倒的な優位性を形成

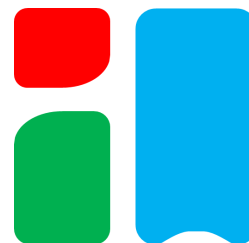
ディスプレイ市場シェア

LCD

OLED

OLEDが世界のディスプレイ市場を席巻

そして、
eLEAPがOLED市場を先導

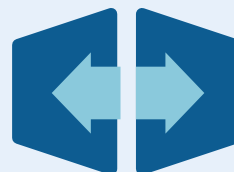


バックライトを要する液晶に対し、OLEDは自発光の有機素子により、 比類なき視認性を提供

美しく色鮮やか
自然な色相



超高視野角



圧倒的な動画
視認性
(高速な
リフレッシュレート)



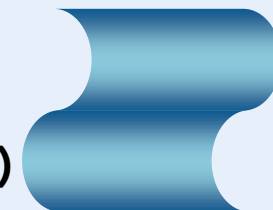
完璧な黒
(バックライトからの
光漏れなし)



薄く、軽く、
省エネ
(バックライト不要)



フレキシブル &
自由自在な成型
(液晶 = 曲がらない)



顧客に最高のディスプレイ性能を提供するために先進的企業はスマートフォン、車載、ノートパソコン等の市場において既にLCDからOLEDへのシフトを開始

すべての主要なグローバルスマートフォンメーカーは数年前からハイエンドモデルにおいてOLEDを採用。ハイエンドモデル以外への展開も進めており、製品競争力維持の観点から競合他社も同様に追従。



スマートフォン

ヨーロッパと米国の主要メーカーは、特にハイエンドモデルにおいてOLEDを展開中。また、多くのメーカーは今後の製品ロードマップにおいてもOLEDの採用が主軸にあることを明示。



車載

ほぼすべてのグローバルトップブランドにおいてハイエンドモデルでのOLED採用を展開。OLEDはもともとはゲーミング用やプロフェッショナル向けの採用に留まっていたが、近年は普及品への採用が拡大中。



ノートパソコン

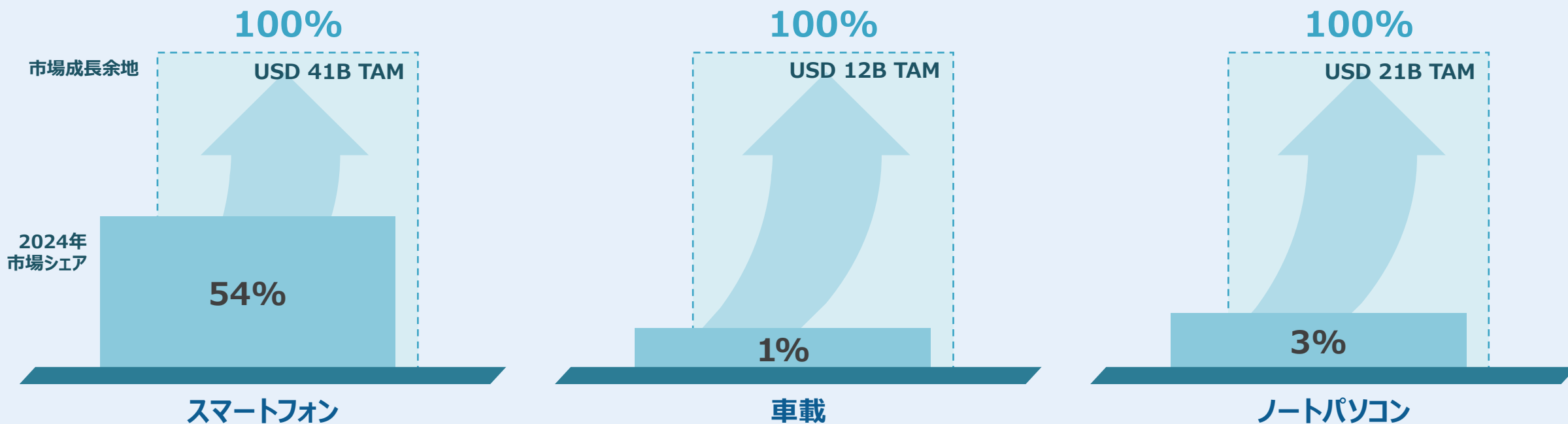
優れた性能を手ごろな価格で求める顧客ニーズに対して、OLEDがMicroLEDやMicroOLEDを引き続き上回るディスプレイソリューションとして展開されていくことが多くの主要メーカーの製品ロードマップからもうかがえる

OLED > Micro
LED

OLED > Micro
OLED

未克服の技術課題、生産歩留まりの低さ、及び高コストが、MicroLEDやMicroOLEDの大量採用への障壁

OLEDが引き続きLCDに替わって採用されるにあたり、膨大な市場成長を見込む



優れた性能の一方、 OLEDには固有の課題も

これらの課題が、従来型OLEDのディスプレイ分野
における広範囲な採用を阻害している



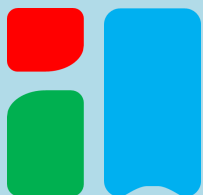
短寿命



高コスト

eLEAPがOLEDの成長を加速

eLEAPは従来型OLEDの利点を維持したうえで、課題を解決



eLEAP



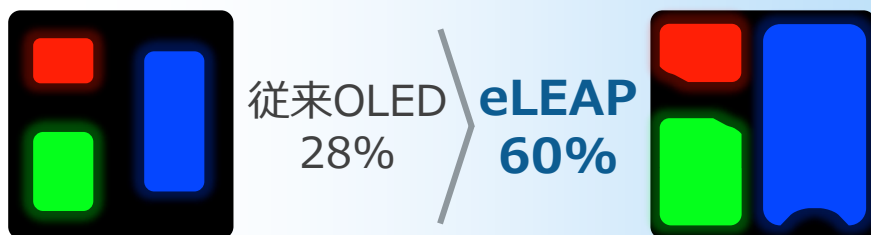
長寿命



低コスト



高輝度（2倍）



既存技術では想像できない明るさ、
鮮やかさ、フリーシェイプ



eLEAP

長寿命（3倍）

寿命比較

	新品 0h	1年後 1000h	3年後 3000h	5年後 5000h
従来OLED				
eLEAP				

※600nit相当輝度で3h/day点灯による輝度劣化を想定したイメージ

**マスクレス蒸着＋フォトリソ方式を用いるeLEAPは、
FMM蒸着方式の従来型OLEDと比較し、生産コストを約30%削減**



**eLEAPによる
コスト削減**

- **FMMの購入費用及びクリーニング費用（化学薬品・水の使用）不要**
- **FMMの交換やメンテナンスによる生産停止時間不要 = 工場稼働率の向上**
- **FMM関連の歩留まり低下やリプレイスメントコスト不要**

OLED蒸着用マスクを使用せず、洗浄不要で環境にやさしいプロセス 最大で年間15万tのCO2排出量が削減可能



年間15万tのCO2排出量 =

CO2吸収量
杉成木
約1700万本



杉林面積
東京ドーム
3,700個



CO2排出量は第6世代基板30ksheet/月における当社試算

eLEAP 14インチ 試作品

eLEAP 1.4インチ 試作品



2022年9月から
顧客への提供

ディスプレイ面積

58倍



2023年7月から顧客に提供

製品仕様・性能共に顧客の期待を凌駕。中国上海で開催された
DIC2023にて14インチを展示し、eLEAPが最高賞である特別技術賞を受賞

ピーク輝度1600ニットの超高輝度 14型 eLEAP ディスプレイをシングル構造で実現

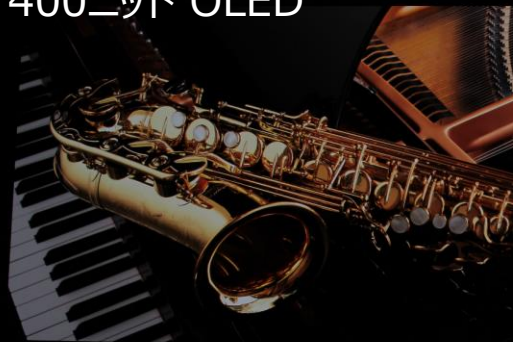
1600ニット

シングル構造

2024年4月から
顧客への提供

- シングル構造ながら、1600ニットの高輝度を実現
- 従来型OLEDで同様の輝度を出すには、生産プロセスを複雑化し、コストを上昇させるタンデム構造の採用が必要
- タンデム構造を採用した場合、eLEAPは3000ニットを超える輝度の実現が可能
- DIC2024にて、ディスプレイデバイスイノベーション大賞（金賞）を受賞

400ニット OLED



1600ニット eLEAP



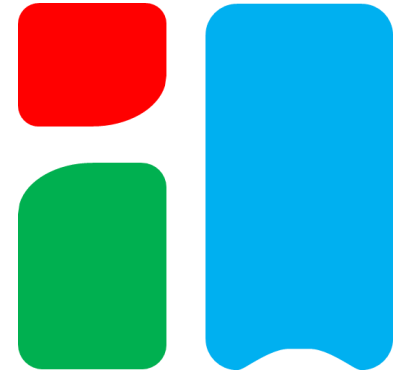
400ニット OLED



1600ニット eLEAP



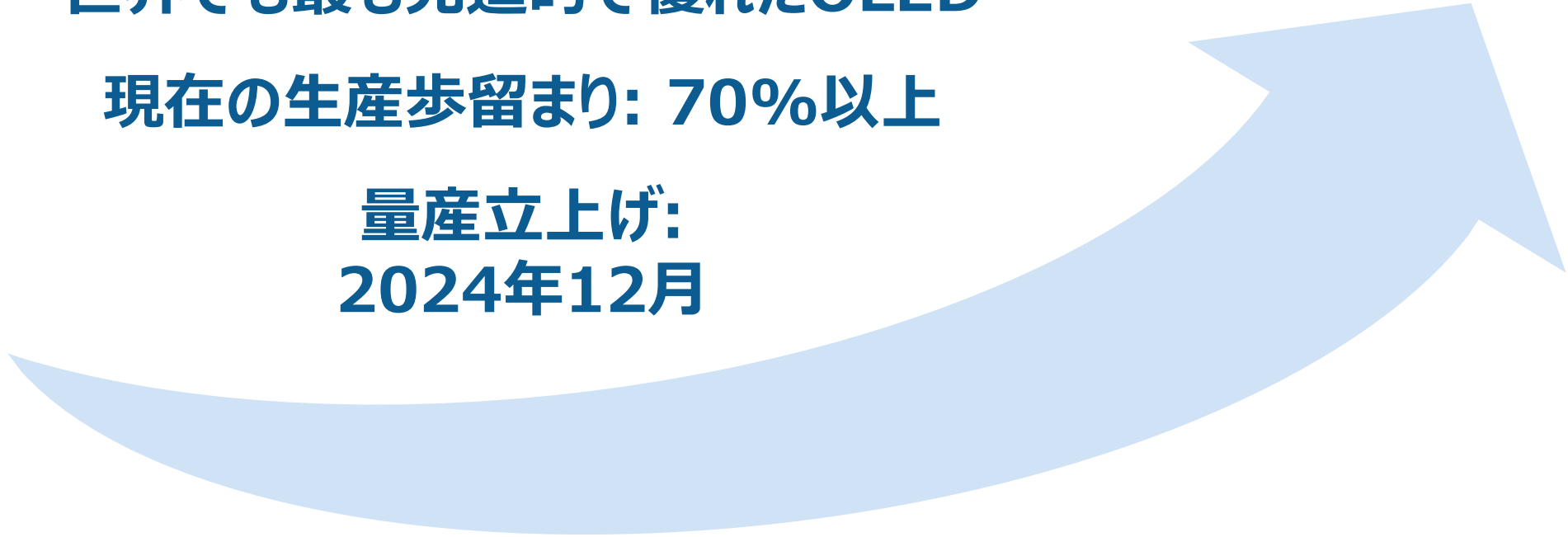
eLEAP 2024



世界でも最も先進的で優れたOLED

現在の生産歩留まり: 70%以上

量産立上げ:
2024年12月



eLEAPがディスプレイ技術の「3rd革命」を完成

1st 革命

CRT
(ブラウン管)

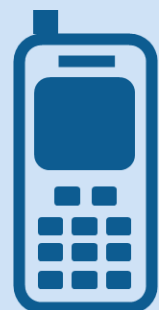
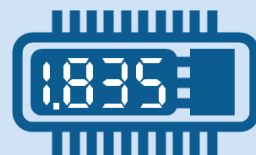


すべての家庭に動く映像を

1930~

2nd 革命

液晶



コンパクト、高エネルギー効率、高解像度画面を家庭や移動中にも

1970~

OLED

「2.5」の進化



高コントラスト、より速く、より軽く。だが、コストが高く、寿命が短い

2010~

3rd 革命

eLEAP



世界初 マスクレス蒸着 + フォトリソ方式の有機EL

従来型OLEDのすべての利点を堅持し、低コストと長寿命を実現

2024~

- eLEAPは圧倒的な技術優位性、高効率の製造プロセスによる他を寄せつけないコスト競争力、高性能、高輝度、高精細、高信頼を含む幅広い分野への適合性、そしてすべてのディスプレイサイズへの展開を可能にするゲームチェンジャー
- これらにより、年間20兆円（2024年）の巨額なグローバルディスプレイ市場のすべてを射程圏内とすることで、今後のJDIの飛躍的な成長と価値創造の源泉となる
- eLEAPは、無類の顧客価値を創造し、ディスプレイ技術の「第3次革命」を起こす

※ グローバルディスプレイ市場規模の出所は、OMDIAによる「Worldwide Flat Panel Display Market (Active Matrix) Size」（2024年4月）（1ドル = 150円にて換算）

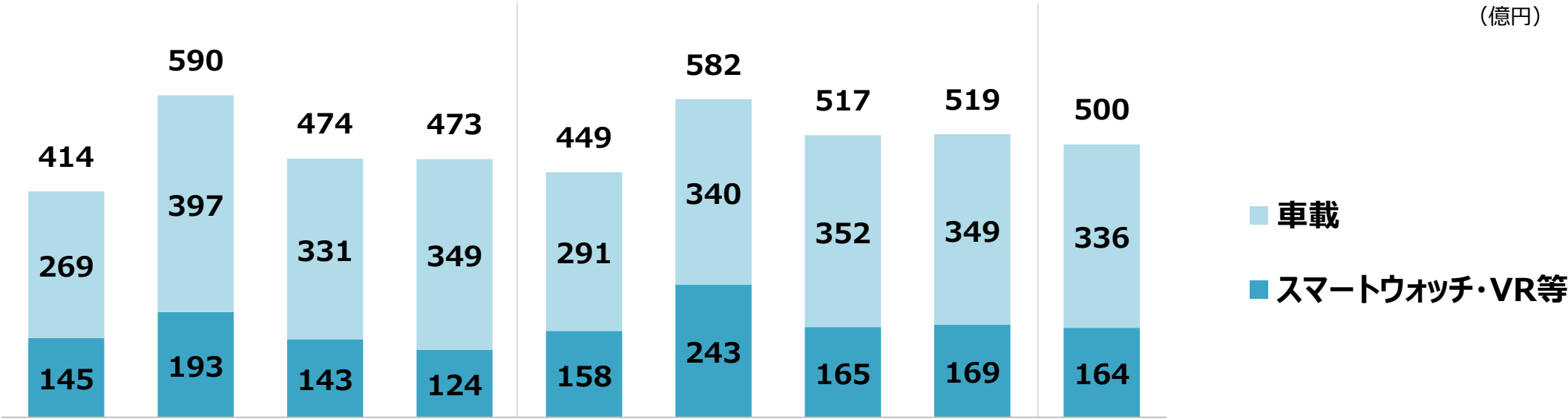


Japan Display Inc.

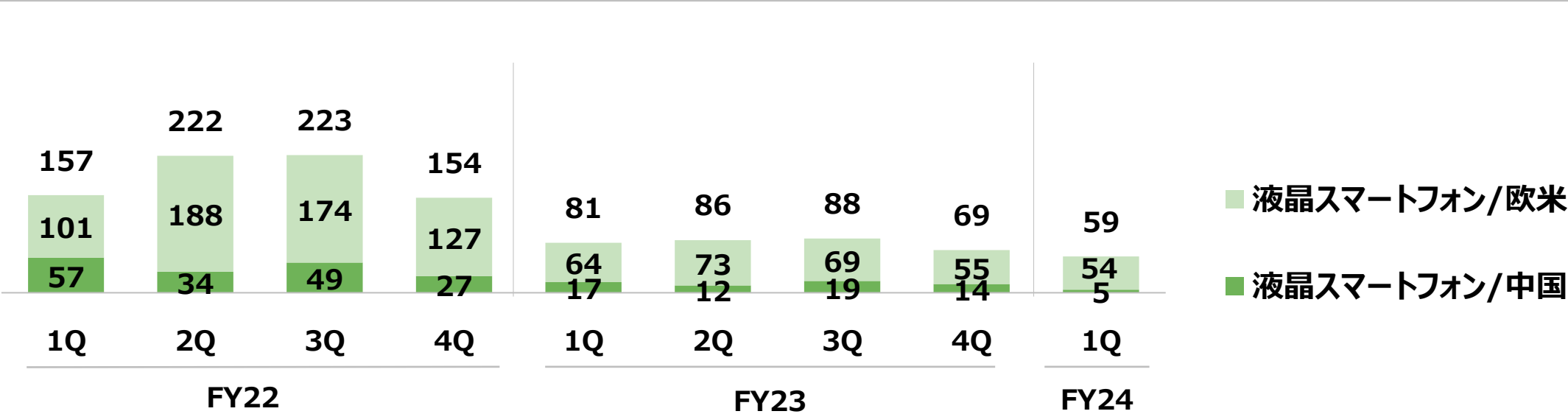
Appendix

(億円)

コア事業



ノンコア事業



(億円)	FY23 期末	FY24 1Q	前年度末比
現金及び預金	293	339	+ 46
売掛金	293	259	- 33
未収入金	179	143	- 37
在庫	640	614	- 26
その他流動資産	115	93	- 22
流動資産合計	1,520	1,448	- 72
固定資産合計	720	672	- 48
資産合計	2,240	2,120	- 120
買掛金	463	443	- 20
有利子負債	348	347	- 1
未払金	181	159	- 21
その他負債	392	364	- 27
負債合計	1,383	1,313	- 70
純資産合計	857	807	- 50
自己資本比率	38.1%	37.9%	- 0.2ポイント

(注) 貸借対照表の「現金及び預金」の額と、キャッシュフロー計算書「期末現預金残高」の額との差異は、「預け金」です。

(億円)	FY23 1Q 会計期間	FY24 1Q 会計期間	YoY
売上高	530	559	+ 29
EBITDA	△ 122	△ 60	+ 62
営業利益	△ 139	△ 70	+ 68
営業外収益	27	6	- 21
営業外費用	△ 9	△ 14	- 5
経常利益	△ 121	△ 79	+ 42
特別利益	0	17	+ 17
特別損失	0	△ 1	- 1
税引前四半期純利益	△ 121	△ 62	+ 59
当期（四半期）純利益	△ 122	△ 65	+ 57
平均為替レート（円/米ドル）	137.5	155.9	
期末為替レート（円/米ドル）	145.0	161.1	

(億円)	FY23 1Q 会計期間	FY24 1Q 会計期間	YoY
税引前四半期純利益	△ 121	△ 62	+ 59
減価償却費	17	10	- 7
運転資金の増減額	32	83	+ 52
その他	△ 25	△ 33	- 8
営業キャッシュ・フロー	△ 97	△ 1	+ 96
固定資産の取得による支出	△ 70	△ 19	+ 51
固定資産の売却による収入	0	59	+ 58
その他	△ 2	△ 6	- 4
投資キャッシュ・フロー	△ 72	34	+ 106
短期借入金の純増減額	120	0	- 120
その他	△ 2	△ 1	+ 0
財務キャッシュ・フロー	118	△ 1	- 120
期末現預金残高	219	333	+ 114
フリー・キャッシュ・フロー	△ 167	△ 20	+ 147

(注) 「フリー・キャッシュ・フロー」は、「営業キャッシュ・フロー」と「固定資産の取得による支出」の合計額です。



THANK YOU

将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、ディスプレイを搭載する電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。